

<様式>

学校名	山形市立第十中学校 山形市若宮一丁目10番12号 TEL 643-1236 FAX 645-8315	校長	山田博志
		研究主任	森岡裕香子
研究主題	「未知・未体験のものに見通しをもってチャレンジする生徒の育成」(3年次) ～教育課程の工夫を通して～		
研究主題設定の理由	<p>本校は平成30年度から一昨年度まで、研究主題『主体的に学び、共に高め合う生徒の育成～「見方・考え方」を働かせる学習活動の工夫～』のもと、生徒の学びを深めるために、各教科の本質に迫る「学習課題」に対し「見方・考え方」を働かせながら追究する学びを研究してきた。</p> <p>令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果によると、本校の生徒は、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」や、「家で自分で計画を立てて勉強をする」の項目が全国、県平均を上回っている。これまでの実践を通して、教科の本質に即した魅力ある学習課題を設定したり、「見方・考え方」を広げる手立てを工夫したりすることで、生徒の主体的に学習に取り組む態度をある程度向上させることができたと捉えることができる。</p> <p>しかし、「自尊感情」、「将来の夢・目標」、「失敗を恐れないで挑戦する」、「人の役に立つ人間になりたい」の項目は、全国、県平均を下回っており、生徒がこれからの社会を生き抜く力は十分とは言えない状況である。</p> <p>令和3年1月に出された中央教育審議会答申では、急激に変化する、予測困難な時代において、新学習指導要領の着実な実施や、ICTの活用を通して、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であると述べられている。</p> <p>令和2年度以降のコロナ禍は、まさに予測困難な社会の変化が起こったと言える。私達教職員は、新型コロナ感染症の影響で、幾度となく教育課程の変更を余儀なくされ、これまで当たり前のように行ってきた一つひとつの教育活動を見直し、厳選する必要に迫られ、「教育の本質とは何か」、「学校生活において生徒を形づくるものは何か」という問いに向き合うことになった。</p> <p>これらの問いに向き合う中で、学力とは、「学校生活全ての総合力」であり、校内研究とは、授業研究のみならず、「生徒の学力を支える学校生活の全て」が対象になるのではないかという結論に至った。</p> <p>そこで、今年度は、昨年度に引き続き、研究主題を『未知・未体験のものに見通しをもってチャレンジする生徒の育成』～教育課程の工夫を通して～とし、教育課程全般を研究の対象として、日々の教育活動を改めて価値づけていくことに取り組んでいきたい。</p>		

研究の目標

授業改善に加えて、教育課程及び学校生活全般の改善を進めることを通じて、次に示す「優しさ」「逞しさ」をもつ生徒の育成を目指し、変化する時代を生きぬく力を向上させる。

- **優しさ**・・・自他を尊重し、主体的に考え、行動できる生徒
- **逞しさ**・・・学びを生かし、夢や目標に向かって挑戦する生徒

研究の仮説

【大仮説】  
 授業改善に加えて、教育課程及び学校生活全般の改善が進めば、変化する時代を生きぬく力は向上する。

**山形十中の学力のイメージ**  
 さあこいエンジン

研究の内容

教育課程全般を研究の対象として、教育活動ごとに小仮説（＝大仮説を具体化したもの）の設定・実践・検証を積み重ね、学校生活全ての総合力としての学力の向上を目指す。

研究の方法

小仮説を実践・研究するための部会（マルシェ）を定期的に関き、小仮説・具体的な手立て等を検討し、実践を積み重ねる。

1 授業改善部	2 教育課程部	3 部活動・駅伝部
4 デジタル部	5 ダイバーシティ部	6 特別支援部
7 教育相談部	8 『総合的な学習の時間』部	9 事務部

研究の計画

4月 6日	校内研修会① (研究の概要について)	10月 11日	公開研究発表会 (授業研究とマルシェごとのプレゼン)
5月 1日	校内研修会② (授業づくりの視点について)	1月 15日	マルシェ部会にて今年度の成果と課題を確認
6月 26日	校内研修会③ (マルシェごとの中間プレゼン)	2月 7日	検証アンケート②
7月 5日	検証アンケート①	3月 8日	研究紀要の発行
8月 7日	校内研修会④ (公開研究発表会の指導案とプレゼン内容の検討)	3月 11日	校内研修会⑤ (今年度のまとめ)